

## 「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

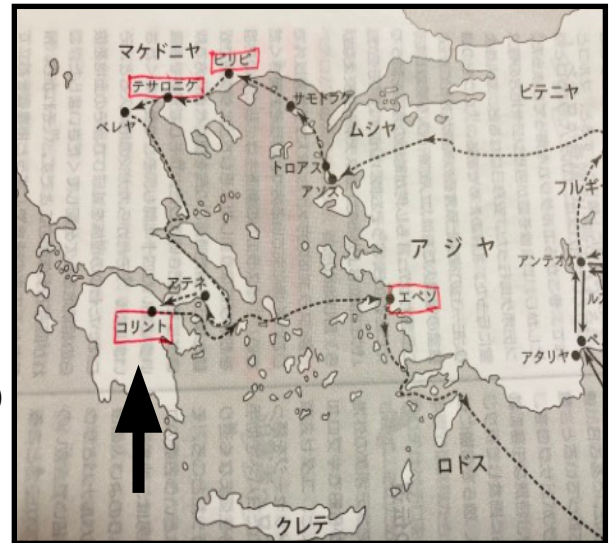
## 1 コリント教会への手紙のアウトライン

## A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

## B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



## 「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

## 1 今日の聖書箇所：12章1節～11節

## 2 今日のポイント：賜物について

## (1)前回までの復習

パウロは11章の後半では「聖餐式」について語っていました。当時のコリント教会では、ユダヤ人の慣習を真似て、聖餐式の前に共に食事をする「愛餐会」が行われていたようです。しかし、その愛餐会の姿を見るときに、コリント教会の実態が明らかになります。本来、愛餐会では、貧富や身分に関係なしにイエス様を信じる人々が共に集まり、恵みや感謝を分かち合うキリストを中心とした集まりです。しかし、コリント教会では富のある人が先に集まり、食事を全て済ませてしまっていたのです。遅れてやってきた貧しい人は愛さん会には参加できずにいたのです。パウロはコリント教会のそのような姿を見ながら、聖餐式をあらためて考えることを通して、キリストを中心とした共同体について考えさせる機会としたのです。

## (2)霊的賜物を正しく理解しよう(1～3節)

コリント教会には、聖餐式や愛餐会の問題以外にも、賜物についての考え方・使い方についての問題がありました。1節には「聖霊である創造主が与えてくださる霊的賜物については、間違った理解をして欲しくない」とパウロが語りました。賜物は古代ギリシア語で「カリスマ」と書かれており「創造主からの贈り物」という意味がありました。つまり、自分の努力で獲得したものではないという事です。しかしながら、コリント教会の中には、この賜物をまるで自分が獲得したかのような態度で生き、自慢したり、みせびらかしたりしている人々がいました。さらには教会内でどちらの賜物が素晴らしいのかを競争したりする人さえいたようです。確かに賜物は自分で得たのではないので、賜物を頂いた人々にとっては不思議に感じることもあったでしょう。2節には「あなたがたが異教徒であった頃は」という言葉が記録されています。異教徒であったとき、他の偶像が祀られている神殿や祭壇でも、賜物のように不思議な出来事が起こっていたようです。無我の状態になってみたり、何かの奇跡が起こって

いたのかもしれませんが(実際に、現代でもインドなどではそのような不思議な事が起こっている)。

しかし、創造主からの賜物かどうかの見分け方は簡単でした。3節に「創造主の聖霊に導かれて語る者は、誰も『イエスは呪われよ』とは言わないし、聖霊に導かれなければ、誰も『イエスは主である』と告白することはできない」とあります。創造主からの賜物を頂いた人は自分が主であると自分に注目させるのではなく、賜物を頂いた創造主の聖霊に導かれて「イエス様は主である」と告白に至ります。不思議な出来事が起きても、イエス様に栄光を返すのではなく自分に注目を集めたり、ましてや異教の神々に思いを向けさせるのはサタンの働きだと言えるでしょう。

パウロは、賜物にあふれたコリント教会の中にあつた賜物への間違つた理解を正し、自分への注目や優越感に浸るために賜物を用いるのではなく、創造主の栄光の為に賜物を用いるようにと指導しました。

### (3)様々な賜物をキリストの体の為に(4~11節)

続いてパウロは、賜物には様々な賜物があることを語りました。8節では「洞察し解き明かす力・論述する力、特別なことを行う信仰、癒しの賜物、奇蹟を行う力、預言する力、聖霊と悪霊を見分ける力、特別な言葉で語る力、ある人にはそれを解き明かす力」を与えられたと語りました。実に多様な賜物です。11節では「御心のままに、めいめい違つた賜物を与えられるのである」とパウロは語りました。創造主なる聖霊様は、私たちにそれぞれ違つた賜物を与えてくださいます。どのような賜物が偉くて、どの賜物が蔑まれてもよいということはありません。それぞれが与えられた賜物に感謝し、それを創造主の栄光の為に用いなければなりません。

7節ではその賜物をどのように、何の為に用いるべきなのかが書かれています。「しかし、一人一人に対して聖霊である創造主が違つたものを与えていてくださるのは、教会全体のためである」と記録されています。コリント教会が賜物で競争したり、自分自身の名誉の為に用いようとしていたのとは反対に、教会全体のため(牧師のためではないので要注意!)に用いるようにと述べています。

私たちが与えられた賜物を、教会のため、教会に集うキリストの体の為に用いるときに、創造主の御名が高められ、創造主が褒め称えられます。

#### ※賜物中止論

聖書学者の中には賜物は新約時代の特別な宣教時代に置いて、付与されたものであり、今の時代には賜物は終了したと述べる人々がいます。また、一部の賜物(預言や異言・癒しの賜物)は、今の時代には存在しないと一部賜物中止論者もいます。では、賜物を与えてくださった聖霊様は2000年前からお変わりになったのでしょうか。聖書に賜物を中止する事が書いていない以上、私たちの時代にも、同じ聖霊様が賜物を用いて教会を建て上げようとしている事を認めなければなりません。時には、今まで経験した事がない賜物を見て、理解ができずに、それを否定したくなる傾向がある人がいるかもしれません。しかし、聖書の語ることに私たちは注目していきたいと思います。

### 3 分かち合ってみましょう

せっかく与えられた賜物を、コリント教会では自分のために用いていました。聖霊様が与えてくださった賜物ですが、教会全体(キリスト共同体)の為に用いない場合には大きな弊害が起こってきます。

私たちに与えられた賜物は何でしょうか。それを教会の為に用いているのでしょうか。もしくは、用いないで宝の持ち腐れになっている部分はないのでしょうか。